

Integrated Photonics Research 2002

(発表者: 鈴木崇功)

1. 会議の概要

- 名称: Integrated Photonics Research 2002
- 主催: OSA (Optical Society of America)
- 共催機関: IEEE / Lasers and Electro-Optics Society
- 開催場所: The Fairmont Hotel Vancouver, Vancouver, Canada
- 日時: 17-19 Jul 2002
- 発表件数
Oral session 88件 (USA 31件、Japan 20件、UK 10件、Canada 5件、Europe 16件、Asia 4件、South America 2件)
Poser session 15件

2. 発表内容

- 「Small V-bend optical waveguide using an elliptic mirror for miniaturizing planar lightwave circuits」について発表した。我々は、小型のPLCを実現させるために、光導波路内での光路変換領域を小さくすることに注目した。従来の光路変換は、曲げ導波路や全反射ミラーを用いていた。しかし、今回は1枚の楕円ミラーを用いて小型な光路変換導波路を実現する事を目的とした(概要はこちら)。
発表時間は12-3分で2-3分程度の質疑応答時間が設けられていた。小型化設計の方法からシミュレーション結果などを中心に発表を行った(発表OHP)。質疑応答では「ミラーのラフネスに対するトレランスはどうなのか?」という質問があったが、ラフネスに関してはいまだ検討中であり、「まだ何もやってない」としか答えられなかった。

3. 感想

- 初めての国際会議であり、正直言って周りを冷静に見る事ができなかった。発表の練習を何回も繰り返したため、発表自体は無難にこなしていたみたいだが、頭の中が真っ白になり一瞬で終わってしまった印象がある。国際会議は3日間あり、その規模はそれほど大きくなく、2セッションが同時に行われている程度であった。そのため、聞きたい講演が絞りがやすかった。他人の発表はヒアリングが難しく、内容を理解するのが難しかった。光導波路の会議であったため、日本からはNTTの方が多く参加されていて、AWGの分野での発表が多かった。以前「Fundamentals of Optical Waveguide」を読んだが、その著者であるNTTの岡本勝就さんが招待講演で参加されていたのが印象的であった。
次回からは国際会議の場をもう少し楽しめるようにしたいと思った。さらに様々な国の人と触れ合える場でもあるため、語学力を磨いて意見交換ができるようにしたい(今回は、話かけられて少し話をした程度であった)。